

静岡県の既存観光資源 を生かした地域活性化 ～新しい観光スタイル で滞在人口の増加～

立教大学経済学部櫻本ゼミナール

土谷里空・尾藤皓太郎・小林ひかり



目次



現状分析①

静岡県が抱える課題



現状分析②(A)(B)

静岡県の観光政策と成果
静岡県の観光から見える課題



現状分析まとめ



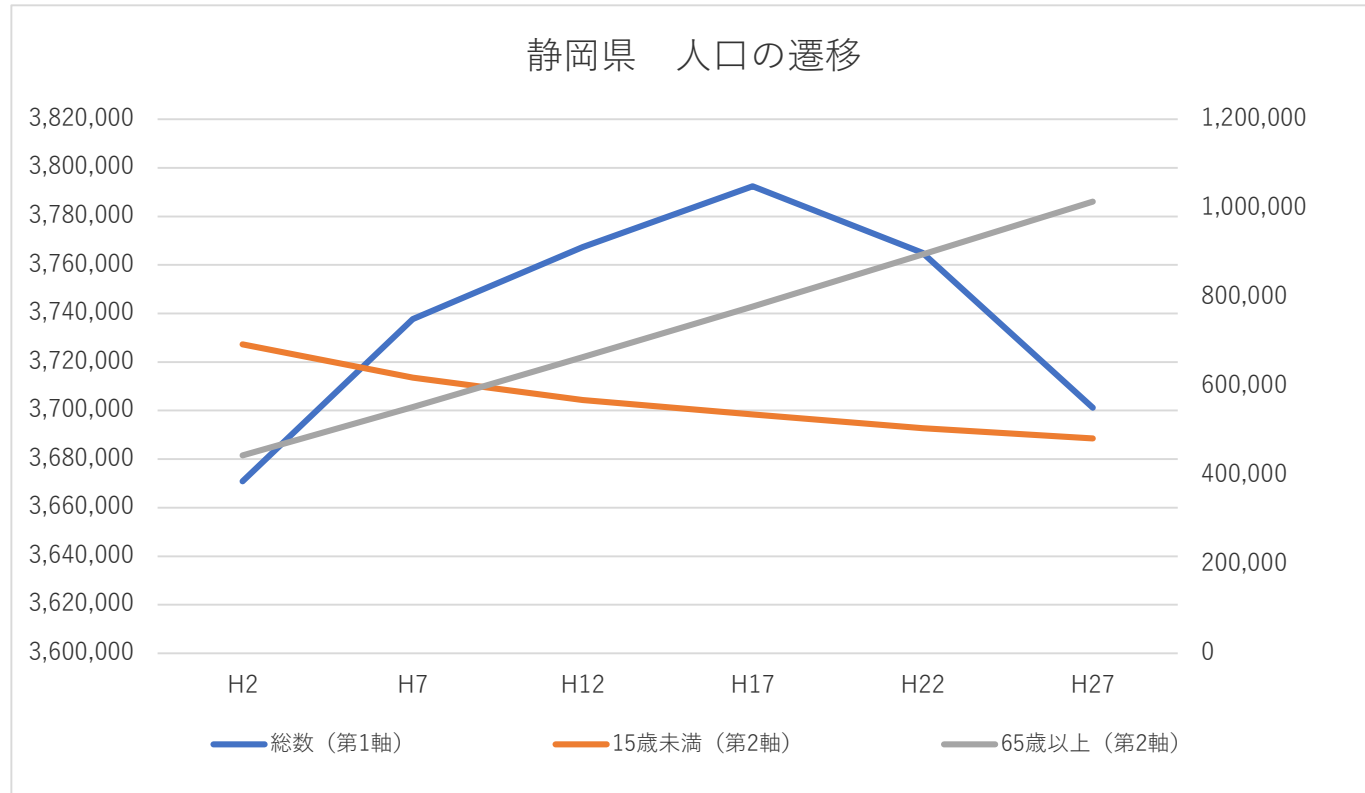
政策提案

解決策の提示
先進的な取り組みとその課題
静岡モデルの紹介



まとめ

現状 静岡県 の課題



(国勢調査より作成)

○静岡市の推定人口

政令指定都市で初めて70万人を下回る
(日本経済新聞 2017年4月7日)

○県全体でも人口減少は加速

2009年～2018年 -141467人
全国ワースト4位

(厚生労働省「人口動態調査」より計算)

原因は…



少子高齢化・転出超過

(*1)

現状 静岡県 の課題

① 少子高齢化



2045年
老年人口
県人口の**38.85%**を占めると予想
2060年
静岡県GDP
現在の4割ほどが失われると予想

(次代を担う若者たちによる県民会議 資料
2-1、「静岡県の人口減少の現場」2016年)

② 転出超過



2013年・2014年
転出超過数 全国2位☆

→主に若年層が首都圏へ
→原因：**進学・就職**

(※2)

☆(厚生労働省「人口動態調査」、
総務省「住民基本台帳人口移動報告年報」より計算
(RESAS、人口マップ、新卒者就職・進学)

③ 2次産業への偏り



第2次産業従業人口割合
静岡県 **33%** ⇔ 全国 24%
(※3)

(RESAS、産業構造マップ)

現状 静岡県政策施策の方針



～2021年「静岡県観光躍進基本計画」

- ①伊豆地方を中心とした観光業の復活
- ②中部、西部地方の観光客数の底上げ
- ③旅行消費の増加
- ④第3次産業従業人口の増加



- ・観光を静岡県が抱える課題解決のきっかけにしようとしている
- ・本当にその方針だけで大丈夫？

現状 静岡県における観光

観光客は**増加傾向**にある

→ 91.3%は県内・関東中部地方から
(静岡県、静岡県における観光の流動実態と満足度調査、2018)

静岡県への観光客数の推移



(平成30年度静岡県観光交流の動向)

よくある旅行パターン

御殿場

伊豆・熱海

伊豆スカイライン

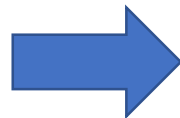


週末、

一部地域に

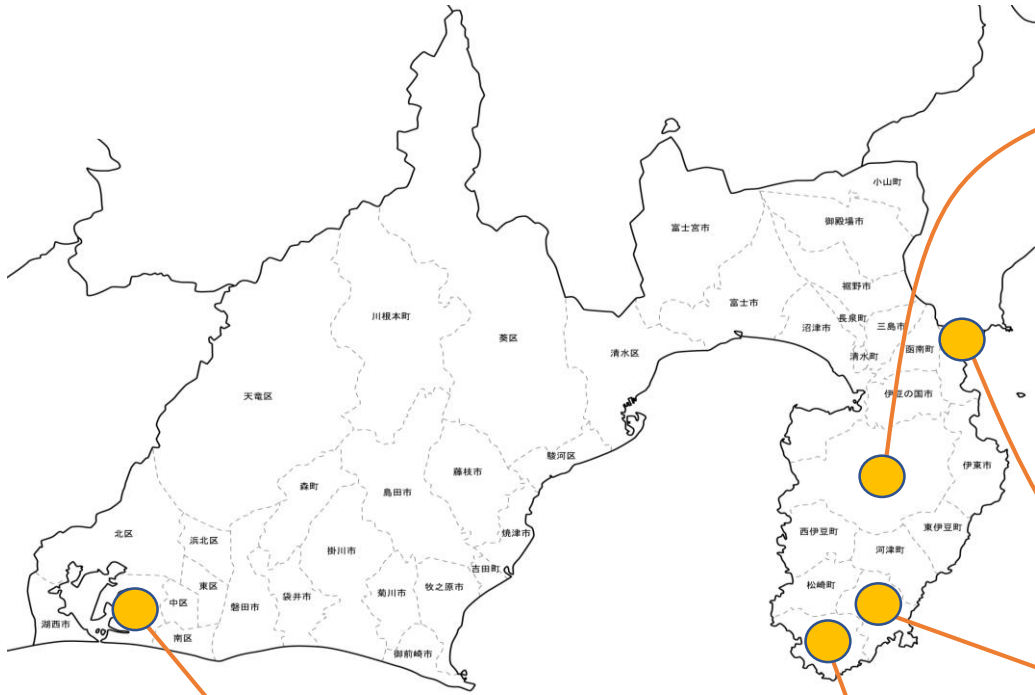
関東中部地方からの

観光客が集中している？



現状 静岡県における観光

RESAS（滞在人口率マップ）より、
県内主要観光地域の滞在人口を分析



伊豆市

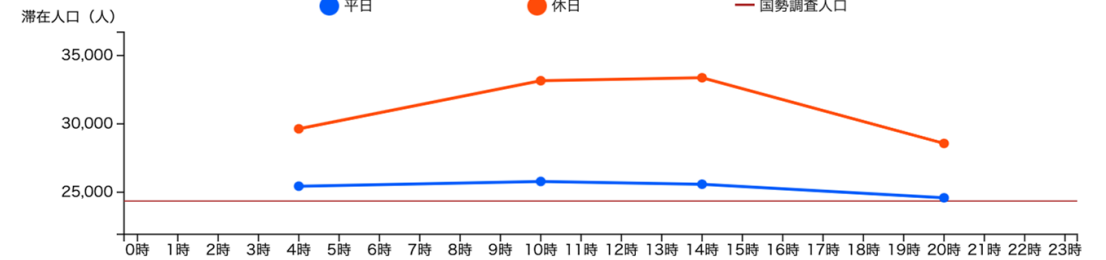
滞在人口の時間別推移

静岡県伊豆市

2019年5月

総数 総数（15歳以上80歳未満）

（国勢調査人口：24,354人）



【出典】

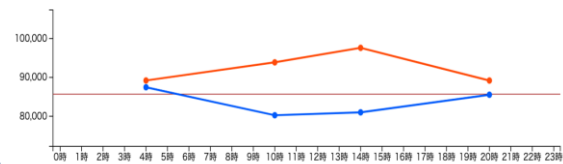
株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」
総務省「平成27年国勢調査」

【注記】

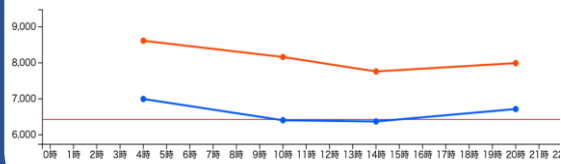
滞在人口率は、滞在人口（株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」）÷国勢調査人口（総務省「国勢調査」夜間人口）で表される。
滞在人口とは、指定地域の指定時間（4時、10時、14時、20時）に滞在していた人数の月間平均値（平日・休日別）を表している。

(C) 2017 NTT DOCOMO, INC. & DOCOMO InsightMarketing, INC. All Rights Reserved.

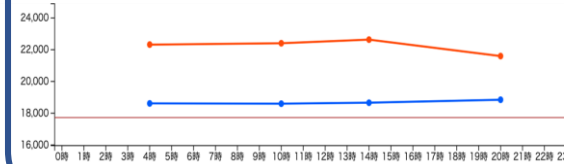
浜松市西区 （浜名湖地域）



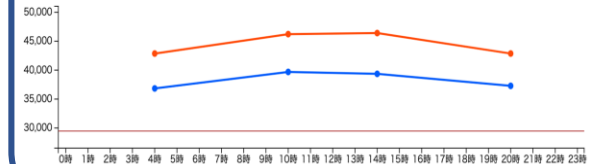
南伊豆町



下田市



熱海市

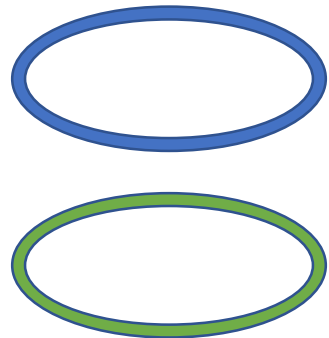
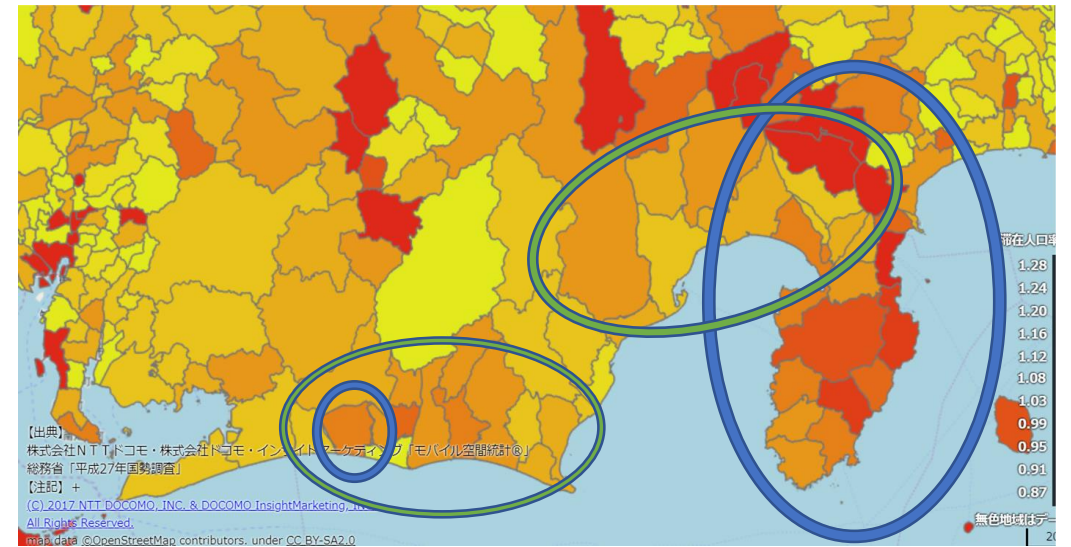
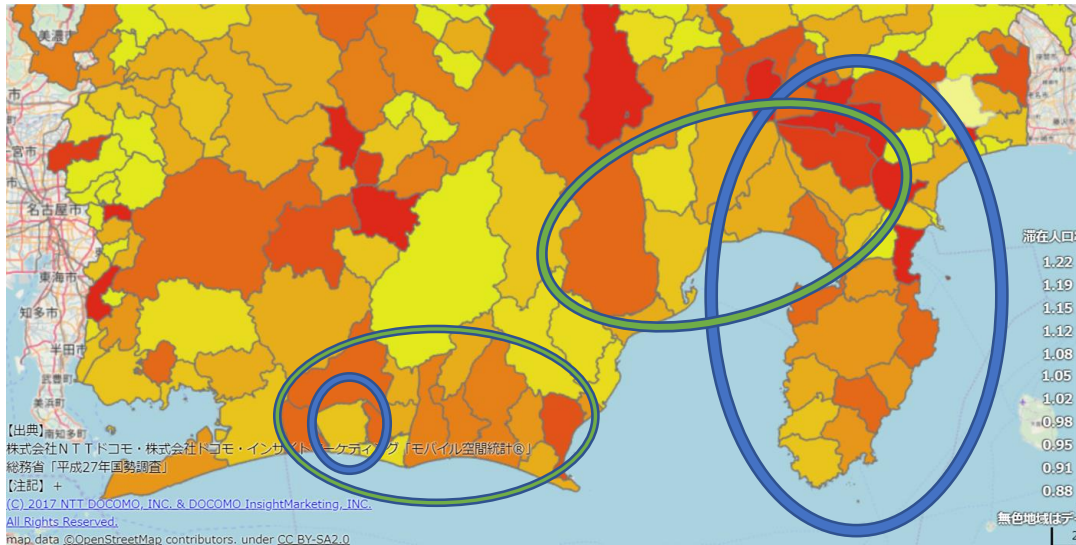


現状 静岡県における観光

RESAS（滞在人口率マップ）より、
県内主要観光地域の滞在人口率を分析

平日

休日



主要観光地域
(東部伊豆、浜名湖)

工業地域

- 主要観光地域において休日のほうが滞在人口が多い
→宿泊施設、観光施設の安定的な需要確保ができていない可能性
→余分な設備維持コストの増加や安定した雇用確保が難しい
- 宿泊施設の平日の空室を活かせないか

現状 静岡県における観光

観光資源が豊富



みかんや茶



富士山・南アルプス



伊豆半島

インフラが整っている



新幹線
高速道路



旅館・ホテル営業施設数**1位**
(厚生労働省、平成30年度衛生行政報告例)



それなのに…




平均滞在日数※が**全国ワースト7位!**

※延べ宿泊者数 ÷ 実宿泊者数


(観光庁、宿泊旅行統計調査より計算、平成31年)

現状 静岡県における観光

 滞在日数が少ないとなぜダメなの？

 **県外観光客消費平均**
日帰り客 8,789円 ⇔ 宿泊客 31,892円
(静岡県、静岡県における観光の流動実態と満足度調査※4)

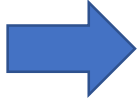
 滞在日数が増えるとどんな良いことがあるの？

 **経済波及効果 UP**
10万人の観光客 帰りから1泊に切り替えた場合
⇒ **+44億3800万円**の経済波及効果
⇒ 日帰り観光客の10万人増に比べ**2.75倍**の効果

計算方法

- ①「37部門取引基本表」（静岡県）から投入係数表、レオンチェフ逆行列係数表を作成。
- ②逆行列係数表に最終消費額を乗じる。
- ③最終需要には「平成30年度 静岡県における観光の流動実態と満足度調査」に示される「静岡県を訪れた旅行客のひとり当たりの消費支出額」より日帰り観光客と宿泊観光客の平均項目別支出を利用。

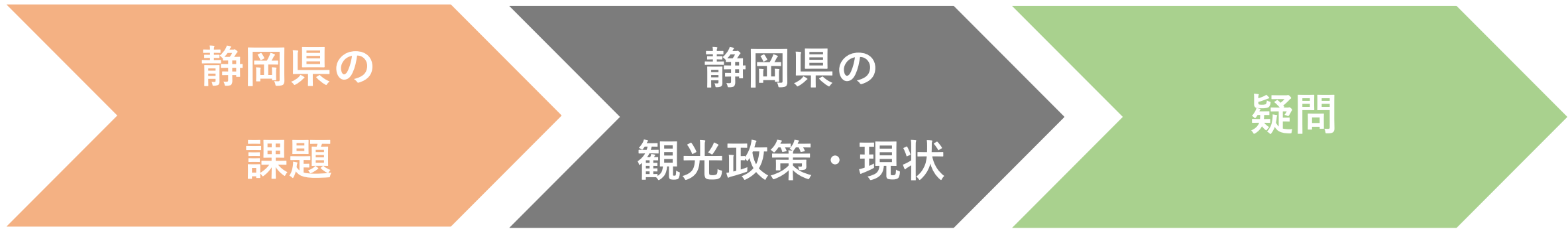
現在

 滞在日数の少なさが
消費の少なさにつながっている

理想

 滞在日数を増やして
経済波及効果を上げる

**今のまま観光客を増やすより、
滞在日数を増やしたほうが良い！**



①少子高齢化



②転出超過



③二次産業への偏り



観光政策

- ・観光需要の喚起
- ・3次産業の増加

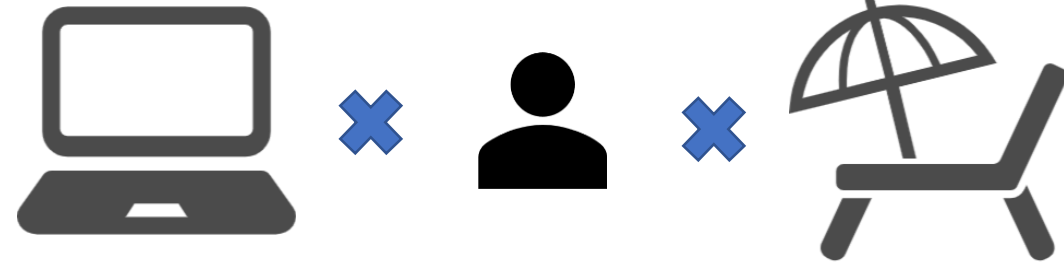


現状

- ◎観光客 増加
- △週末に観光客が集中
- △滞在日数が少ない



施策提案



ワーケーションの受け入れ

ワーケーションとは？

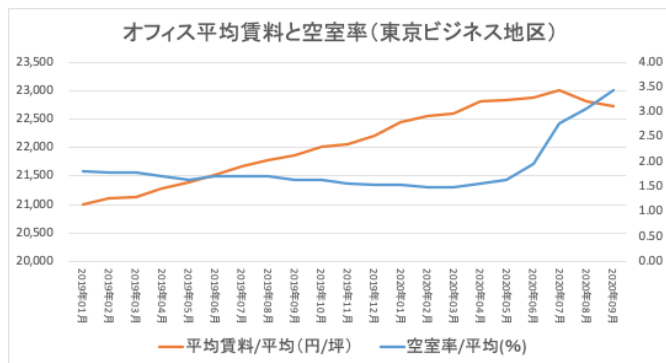
ワーク×バケーション…長期滞在先でパソコンなどを使って仕事することを指す

? ワーケーションの受け入れによって何が見込めるのか？



現在の課題が緩和される

- ① 宿泊日数の増加 ⇒ 観光消費の増加
- ② 滞在人口の増加と安定
- ③ 観光をきっかけにした 移住促進



先進的な取り組み



和歌山県 (H29～)

- WWP (Wakayama Workation Project)
- 好アクセス・豊富な観光資源
- 企業誘致、コワーキングスペースの整備・提供、コーディネートなど
- 交通費補助



長野県

- 信州リゾートテレワーク
- リゾートテレワーク対応施設の整備
- イベント開催、情報提供



WAJ (ワーケーション自治体協議会) (R01～、和歌山県・長野県設立)

- モニターツアーの実施や政策提言を通じたワーケーションの普及啓発活動
- 会員自治体121件 (1道15県105市町村) (2020年10月20日時点)

成果

- ✓ ワーケーションの認知度上昇
- ✓ 施設・設備の普及
- ✓ 取り組み参加自治体・企業の増加

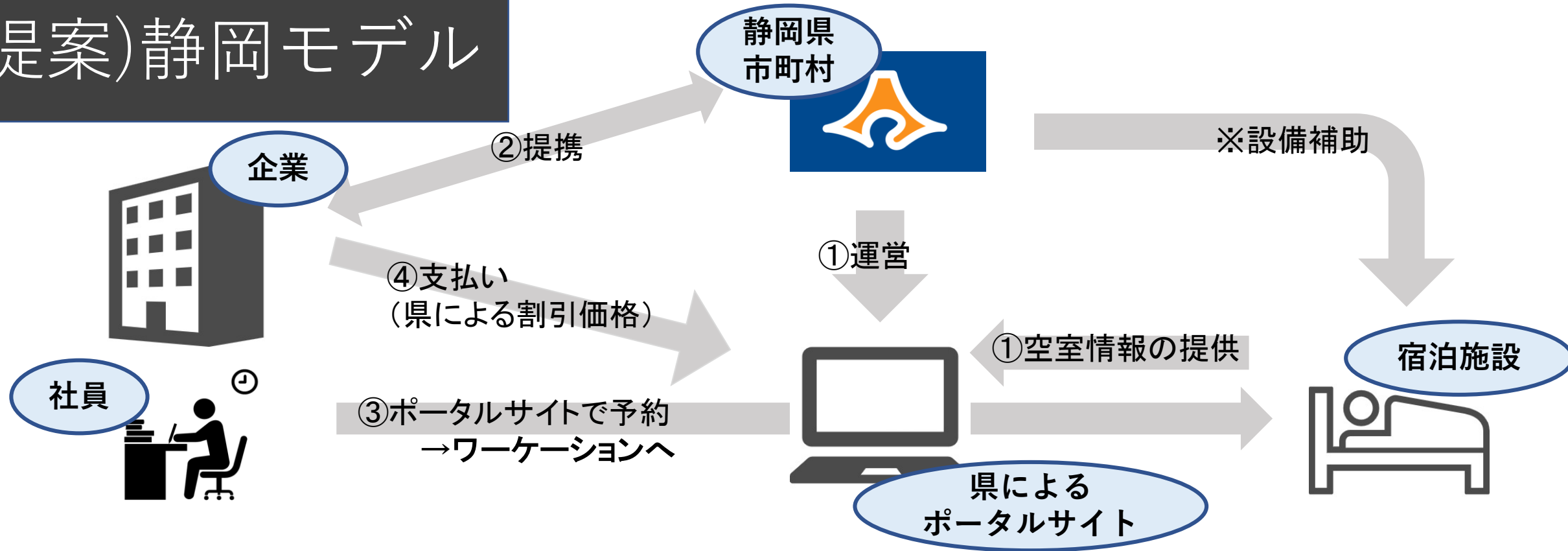
課題

- ✓ コワーキングスペースなど、ワーケーション関連施設は安定的な賃料収入が見込めず参入ハードルが高い
- ✓ 社員間のコミュニケーションや業務管理、帰属意識の難しさ
- ✓ 費用負担は従業員がするケースが多い



静岡モデルで解決！？

(提案)静岡モデル



- ①県が宿泊施設の空き状況を一括把握するポータルサイトを運営
- ②県内の市町村は企業（主に首都圏・中京圏の第3次産業）と提携
- ③社員はポータルサイトを通して企業が契約した市町村の宿泊施設でワーケーションが可能
- ④利用料は企業負担…静岡県からの補助金を適用し割安で予約可能

付随効果

- ①静岡の良さを実感した人
⇒静岡への移住
- ②企業へ
⇒サテライトオフィスの誘致

解決策 メリット



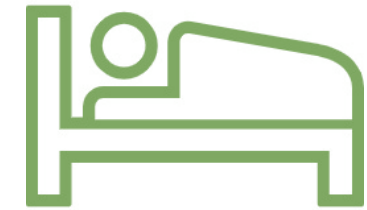
企業

- オフィス面積の縮小
- 従業員の生産性の上昇



従業員

- 生産性の上昇
- 企業によるワーケーション費用負担



宿泊施設

- シーズンのオンオフ・平日休日に関わらない安定的な需要確保



静岡県

- 滞在人口の増加
 - 滞在日数の増加
 - 既存観光資源・宿泊施設の有効活用
 - 移住・サテライトオフィス進出のきっかけに
- 滞在人口・観光消費の増加、定住人口増加・第3次産業普及のきっかけ

解決策としての静岡モデル



静岡モデルの転用によってワーケーションの問題点も解決できる！

問題点①
参入障壁が高い

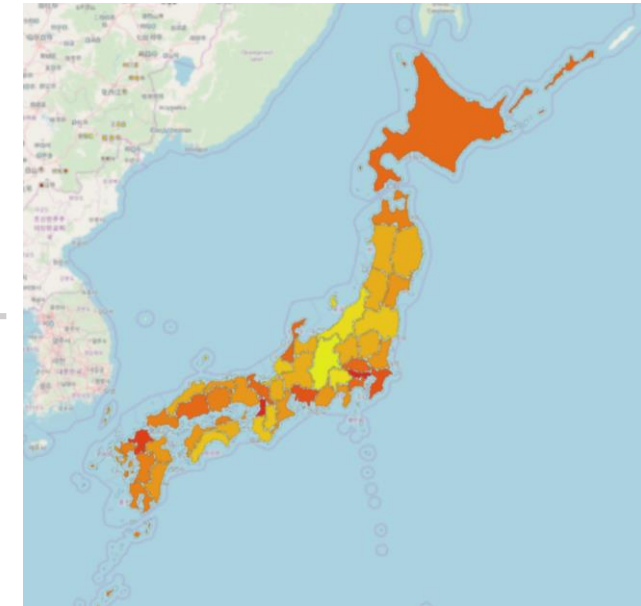
問題点②
社員管理・コミュニケーションが難しい

問題点③
費用がかかる

- ・ 既存の旅館ホテルを
コワーケーションスペースとして利用
- ・ 多くの都道府県で客室稼働率に余力がある

- ・ 企業と都道府県・市町村との契約制
- ・ 社員のワーケーション地域の把握
- ・ 滞在先でのコミュニケーションが可能

- ・ 従業員…企業負担によって無料
- ・ 企業…ポータルサイト経由予約で県負担によって割引



平均稼働率（客室）（RESAS、観光マップ）

実現可能性



ワーケーションプラン実施ホテルへのヒアリング



ホテル（伊豆地方）

- ・ 平日の空室を活用したワーケーションプランを提供
- ・ 11月の滞在型プラン（ワーケーション利用含む）利用人数→60名
- ・ 利用者は11月いっぱいまで増加傾向（GoToトラベル利用も影響か）
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大もあり12月は停滞気味



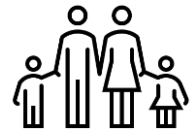
静岡県 暮らし環境部

- ・ 2019年度、移住者数1283人、相談件数1万85件
- ・ 半年ごとの集計だが、2020年度については非公表
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大後、対面相談中止などの処置が取られたため、9月末時点の集計では相談件数は増えていない

今後の検討事項



受け入れ態勢の整備



地域住民との交流機会の創出



アグリワーケーション等への展開



企業・社会・地域へのワーケーションの認知・浸透

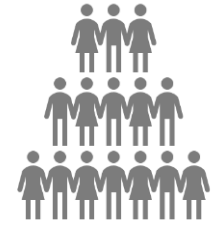
まとめ

静岡県

◎豊富な観光資源 ◎宿泊施設多数 ◎地理的特性



△旅行形態の偏り △低い滞在人口



平日の観光客の増加により解消 滞在日数の増加により解消

ワーケーションの受け入れが可能！

絶対的な滞在人口・観光消費の増加につながる

移住 サテライトオフィスの進出



により

定住人口

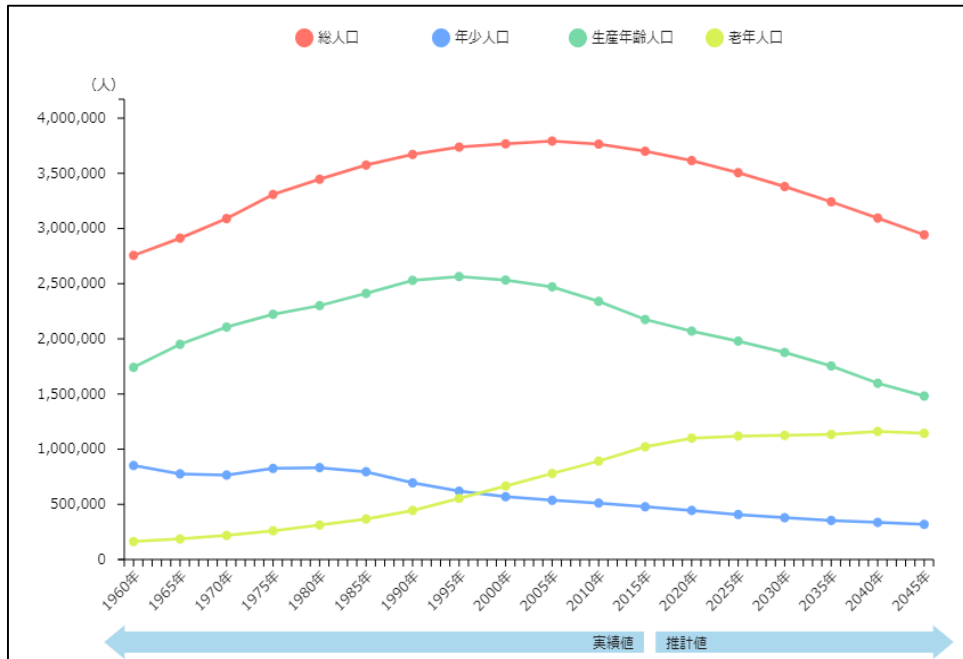
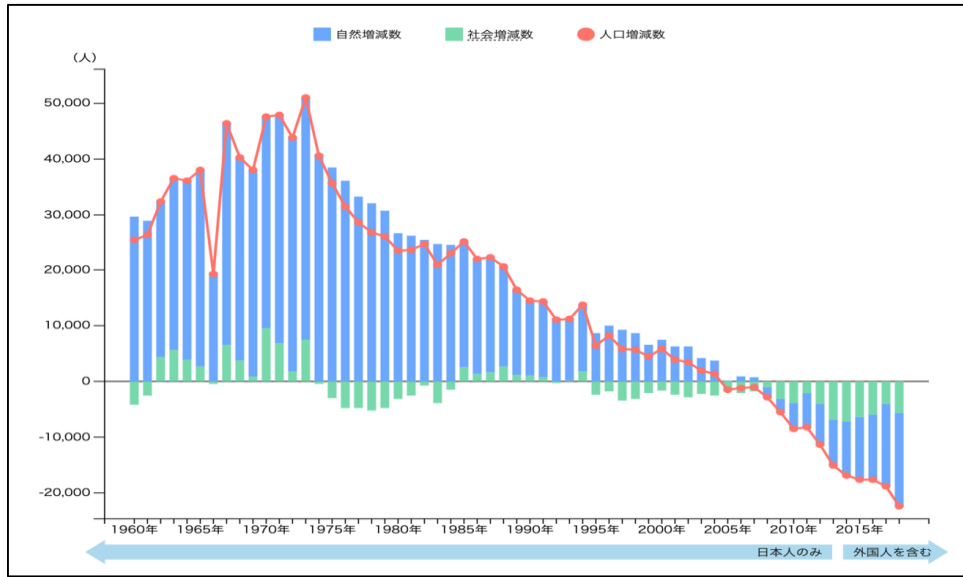
第3次産業従業人口

の増加が期待できる！

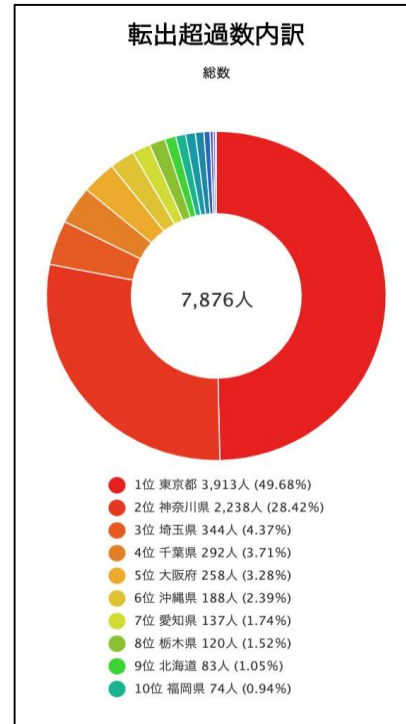
ご静聴ありがとうございました。

(参考資料)

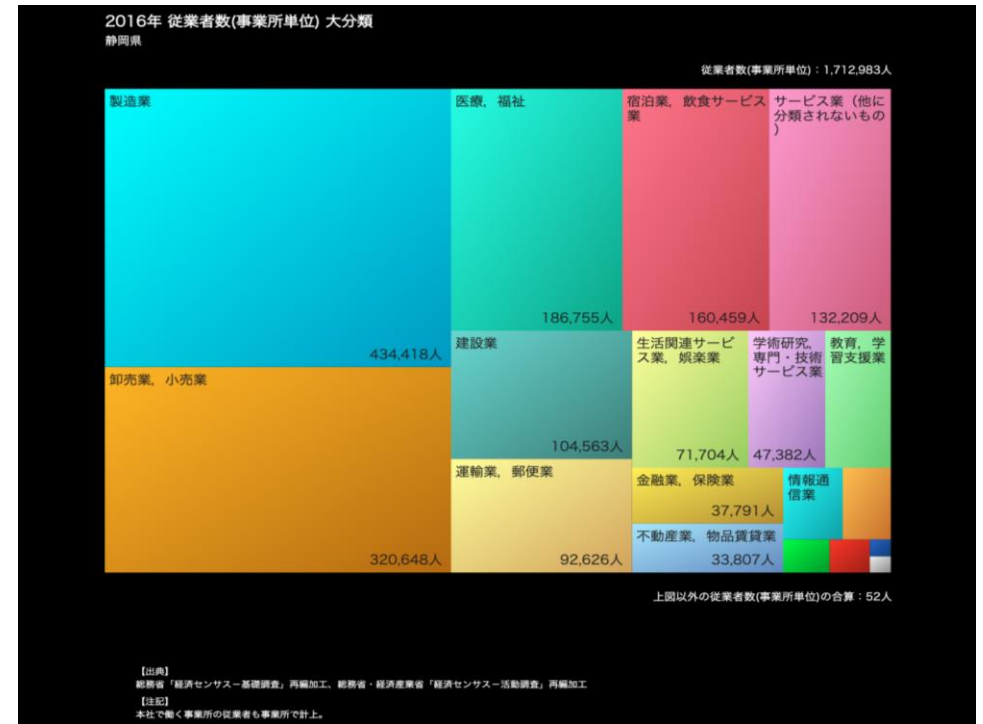
(※1) 静岡県人口増減とその内訳



(※2) 静岡県転出超過数内訳



(※3) 産業別従業者数



※4 静岡県における観光の流動実態と満足度調査

対象：静岡県内の観光施設、駅など立寄施設計 24 施設及び宿泊施設計 23 施設、延べ8,160 件

方法：立寄施設→各施設にて調査員が聞き取り(平日から1日、土日祝日から1日)
宿泊施設→各宿泊施設にて配布、後日郵送による自記形式

資料1：RESAS、人口マップ
資料2：RESAS、人口マップ
資料3：RESAS、産業構造マップ